

ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)
 群馬県前橋市元総社町七三-15
 TEL 027-2555-3434
 FAX 027-2555-3435
<http://www.neues-asahi.jp>

「日本人の神様って、時間だと思わない？」と、大学時代にサークル室で哲学科に通う先輩が言いました。初めは「この人は何を言っているのだろう？」と思っただけですが、「だって、一番『時間』を優先するじゃない？時間通りにいかなかったり、時間の無駄とか期限切れとか執拗に怒るし、何よりも一番に時間に従うでしょ。お金もそうかもだけど、やっぱり時間よ。」という彼女の意見を聞いていたうちに、なんとなくそんな気もしてきました。人の善悪の判断の根本には宗教的価値観または無宗教的倫理観があると漠然と考えていたのですが、日本では宗教や倫理というよりも時間やお金が一番に人を支配している場合が多いのではないかと議論しました。最近でも、人が追い詰められた結果によるような悲しい事件をニュースで見るたびにふとその先輩の言葉を思い出します。

他者を大切にすることで他人の時間やお金も大切にすることはもちろん社会生活をするうえで必要なことだと思います。しかし、その社会的なルールを一番大切な指標として日常を過ごしてしまつては、何かと大切なものが見過ごされるような気もします。

といつても染みついた「合理主義」的な考えはなかなか抜けません。あるとき、イタリアで友人たちと週末に食事の約束をしました。まずは友人Aが約束の時間より遅れて我が家に迎えに来ました。その後、別の友人Bを迎えに行きました。そして次は別の友人Cを、なんと！こんどは私の家の方角に戻る形で通り越して迎えに行きました。全部待ち合わせ時間などあつて無いようなもので、急ぐそぶりもなく、途中で突然カフェでコーヒを飲んだりして、道のりも無駄だらけ…。割と時間にルーズな私もだんだんイライラとして、「時間が無駄だしガソリンも無駄。最初に考えて合理的に回つたりできないの？もうレストランに着いて食べてもいい時間じゃない！」と言つたら「君は何が目的なの？」と逆に言い返されました。「友達と会つて一緒に過ごすのが目的なのに、なんで時間に支配されなきゃいけないんだ。時間や道順なんかどうでもいい。」あまりにも堂々と言われ、私も思わず唖つてしまいました。価値観は人それぞれだし私は順応性のある方だと思つていました。が、それでも万人に共通すると思つていた「時間やお金を合理的に使うことが正義だ」という考え方がガタガタと崩れました。そして先輩が言つていた「時間が神様」の言葉を思い出したのです。私の神様も時間とお金だったのか…と。

合理的に物事が運んだ時の快感や、節約してお金を使うことの大切さを否定するわけではありませんが、様々な価値観が必然的に変わつていく昨今、その都度自分で判断して、物事に順位をつけて行動していくことが必要な場面が多くなると思います。お金や時間はあくまでも行動する時の目安にはなりますが、大切なものは目に見えない、時間がかかる、お金もかかるものなのかもしれません。私が感動したり怒つたり悲しんだりする礎となるものは、時間やお金ではなく『心ある神様』でいてほしい…と思つています。(橋本)

ノイエス朝日(展覧会)のご案内

マスク着用と手指の消毒は引き続きお願いいたします。

ノイエスふる本市

〈企画〉

会期 二月五日(土)～十三日(日)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

図書リストについて

今回のふる本市は案内状はありません。

図書リストが必要な方にはノイエス朝日でお渡しするか、ご希望の方には郵送いたしますのでご連絡ください。

なお、リスト内にはすでに販売済になったものや、予約が入ったものもあります。在庫確認などのご希望がある場合もお時間がかかりますのでご了承ください。

ご連絡は展覧会会期中にお願いいたします。

綿貫哲雄作陶展

〈企画〉

―目を挙ぐ―

会期 二月十九日(土)～二十七日(日)

午前十時～午後五時(最終日は午後四時終了)

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

予告

掛川孝夫展

〈企画〉

3・11 交叉する記憶

会期 三月五日(土)～十三日(日)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

- | | | | | | | | |
|----|-----------------|--------------|--------|--------|-------|-----|-----|
| 1 | 小説の力：新しい作品論のために | 田中実 | 大修館書店 | 一九六 | | | |
| 2 | 個我の集合性：大岡昇平論 | 亀井秀雄 | 講談社 | 一九七 | | | |
| 3 | わが小泉八雲 | 佃実夫 | 河出書房新社 | 一九七 | | | |
| 4 | 私小説という人生 | 秋山駿 | 新潮社 | 二〇〇 | | | |
| 5 | 日本語 実用面 | 中野重治 | 筑摩書房 | 一九九 | | | |
| 6 | 文学・人間・社会 | 中野好夫 | 文藝春秋 | 一九九 | | | |
| 7 | 良寛ノート | 大場南北 | 中山書房 | 一九九 | | | |
| 8 | 黄昏のダンディズム | 村松友視 | 佼成出版社 | 二〇三 | | | |
| 9 | 歴史と文学の旅 | 斎藤茂吉の風土 | 真壁仁 | 一九五 | | | |
| 10 | 戦後文学論 | 饗場孝男 | 審美社 | 一九六 | | | |
| 11 | 言葉の棘 | 秋山駿 | 北洋社 | 一九五 | | | |
| 12 | 語らず、歌え | 島田雅彦 | 福武書店 | 一九七 | | | |
| 13 | 蝸牛庵訪問記：露伴先生の晩年 | 小林勇 | 岩波書店 | 一九六 | | | |
| 14 | 地下水道 | 井上光晴 | 岩波書店 | 一九七 | | | |
| 15 | 漱石山房回顧：その他 | 林原耕三 | 桜楓社 | 一九五 | | | |
| 16 | 谷崎文学の愉しみ | 河野多恵子 | 中央公論社 | 一九五 | | | |
| 17 | 金子光晴論：エゴとそのエロス | 新谷行 | 泰流社 | 一九七 | | | |
| 18 | 金子光晴研究 | 首藤基澄 | 審美社 | 一九〇 | | | |
| 19 | 今、ここからすべての場所へ | 茂木健一郎 | 筑摩書房 | 二〇〇 | | | |
| 20 | 来る日去る日 | 檀一雄 | 皆美社 | 一九三 | | | |
| 21 | 発想の周辺：安部公房対談集 | 安部公房ほか | 新潮社 | 一九五 | | | |
| 22 | 河出文藝選書 | 夏目漱石論 | 桶谷秀昭 | 河出書房新社 | 一九六 | | |
| 23 | 夏目漱石論 | 連貫重彦 | 青土社 | 一九六 | | | |
| 24 | 毒・風聞・田中正造 | 立松和平 | 東京書籍 | 一九七 | | | |
| 25 | おやじの癪癪 | 天田俊明 | 同時代社 | 一九五 | | | |
| 26 | 随筆集 | ふと聞えた言葉 | 佐多稲子 | 講談社 | 一九四 | | |
| 27 | 気分について | 河野多恵子 | 福武書店 | 一九六 | | | |
| 28 | みちのくの人形たち | 深沢七郎 | 中央公論社 | 一九六 | | | |
| 29 | 風の花嫁たち | 古今女性群像 | 大岡信 | 草月出版 | 一九五 | | |
| 30 | にぎやかな街で | 丸谷才一 | 文藝春秋 | 一九六 | | | |
| 31 | 洋燈の孤影 | 漱石を読む | 高橋英夫 | 幻戯書房 | 二〇〇 | | |
| 32 | 中原中也の世界 | 北川透 | 紀伊國屋書店 | 一九九 | | | |
| 33 | さよなら巴里 | 益田義信 | 三修社 | 一九九 | | | |
| 34 | 薔薇の寝床 | 高井有一 | 中央公論社 | 一九九 | | | |
| 35 | 世界の詩 | 新ハッセ詩集 | ヘッセ | 高橋健二訳 | 白風社 | 一九九 | |
| 36 | 青春の詩集 | 日本篇 | 金子光晴詩集 | 金子光晴 | 中島可郎編 | 白風社 | 一九九 |
| 37 | 中国版のプレヒト | 長谷川四郎 | みすず書房 | 一九三 | | | |
| 38 | 筑摩書101 | カカとの習字・手記と追想 | G・ヤノ | 吉田仙郎訳 | 筑摩書房 | 一九七 | |
| 39 | 筑摩書114 | カフカ論 | M・フランシ | 栗津則雄訳 | 筑摩書房 | 一九六 | |
| 40 | 十二階崩壊 | 今東光 | 中央公論社 | 一九六 | | | |
| 41 | ボーヴォワールと語る | 『第二の性』その後 | ジュゼ | 人文書院 | 一九七 | | |
| 42 | ダイアン監督 | 塩谷真介訳 | シヨゼ | 人文書院 | 一九七 | | |
| 43 | 若き日のカカ | K・ツァーゲンバハ | 中野孝次 | 高辻知義訳 | 竹内書店 | 一九九 | |
| 44 | 現代作家論 | 高橋英夫 | 講談社 | 一九九 | | | |
| 45 | 時間 | 黒井千次 | 河出書房新社 | 一九九 | | | |
| 46 | ボードレールの生涯 | フランソワ・ポルシェ | 小島俊明訳 | 二見書房 | 一九五 | | |
| 47 | 夜遊の袖 | 吉野光 | 作品社 | 二〇〇 | | | |
| 48 | 志賀島 | 岡松和夫 | 文藝春秋 | 一九六 | | | |
| 49 | 谷崎潤一郎の文学 | 伊藤整 | 中央公論社 | 一九七 | | | |
| 50 | 透明空間が見える時 | 津島佑子 | 青銅社 | 一九七 | | | |

↑ 図書リストサンプル 1p.

